

このカタログでは、下記の商品からお選びいただけます。



商品番号 | 6941

Sweets plate/Uchidashiと魚の菓子切り

日本の伝統的な木材加工技術「名栗加工」が施された木型を使用し制作されたスイーツプレート。無骨な質感がスイーツを引き立てます。魚の菓子切りとセットでお届け。

セット内容
Sweets plate/Uchidashi-S
(直径約115 mm／アルミ合金、ウレタン塗装)、
魚の菓子切り(長さ約110mm／アルミ合金)



商品番号 | 6942

Sweets plate/Flatと魚の菓子切り

装飾のないシンプルなデザインのスイーツプレート。伝統的な砂型鑄造の工程によって生まれる細かな砂の質感が、静かな美しさを演出します。魚の菓子切りとセットでお届け。

セット内容
Sweets plate/Flat-S
(直径約115 mm／アルミ合金、ウレタン塗装)、
魚の菓子切り(長さ約110mm／アルミ合金)



商品番号 | 6943

Sweets plate/Umeと雉の菓子切り

木型職人が現代の風景をイメージして手彫りした梅の木のデザイン。何も盛りつけなくてもそれだけで存在感のある、華やかなプレートです。雉の菓子切りとセットでお届け。

セット内容
Sweets plate/Ume-S
(直径約115 mm／アルミ合金、ウレタン塗装)、
雉の菓子切り(長さ約110mm／アルミ合金)



商品番号 | 6944

Sweets plate/Sakuraと雉の菓子切り

木型職人が現代の風景をイメージして手彫りした桜の木のデザイン。何も盛りつけなくてもそれだけで存在感のある、華やかなプレートです。雉の菓子切りとセットでお届け。

セット内容
Sweets plate/Sakura-S
(直径約115 mm／アルミ合金、ウレタン塗装)、
雉の菓子切り(長さ約110mm／アルミ合金)

WHAT'S

KAMAHACHIプレートセットとは

- 1. 創業300年の歴史を持つ「金森合金」の精錬・鑄造技術で制作
- 2. 金沢の茶道の歴史を今に受け継ぐ、上品ながらも親しみやすいデザイン
- 3. 役目を終えた地域のアルミ素材を再活用したサステナブルなアイテム



発祥は加賀藩主・前田利長の時代。 鑄造の伝統を守り続ける会社

江戸時代より脈々と受け継ぐ伝統の砂型鑄造技術で、時代のニーズに合わせたさまざまな製品を作り続けてきた鑄物会社です。2025年の大阪・関西万博では「未来社会ショーケース事業」サプライヤーとして、能登半島地震の災害廃材を活用したサインスタンドを制作。

株式会社 金森合金

石川県金沢市松村6丁目100番地
TEL 076-267-3003
[Instagram] kanamori1714



KAMAHACHI

プレミアムギフトバコ



KAMAHACHI プレミアムギフトバコ

温かみを感じさせながらも、銀食器のような上品さをまとったスイーツプレートと菓子切り。創業300年の歴史を持つ「金森合金」の技術によって役目を終えた地域のアルミ素材を丁寧に再生し、砂型鑄造の技法で新しい姿に生まれ変わらせた、サステナブルなアイテムです。現代を生きる私たちが大切にしたいこの価値観と、金沢の人々がずっと昔から大切にしてきたお茶の時間。そのふたつが重なり合った、豊かな時間を届けてくれます。



JINOMON GIFT BAKO



役目を終えた金属に 新しい姿を与える技術

銅や錫、そしてアルミなどの非鉄金属を溶かし、不純物を取り除いて型に流し込み、別の製品へと生まれ変わらせる。『金森合金』は、そんな「精錬」と「鑄造」の分野で江戸時代からの長い歴史を築いてきた金沢の会社です。

1714年に鑄物商を創業。『釜八』という屋号で、鍋釜を製造して貸し出し、修理やメンテナンスも行う「貸釜^{かしがま}」という商いを営んでいました。

「その当時、わが社の金属製品は、人々の身近な場所に置かれていたはずですよ」と話すのは、同社の24代目、高下裕子さん。現在手がけるのは主に機械部品。長い歴史で培われた技術がロケット部品素材などの極めて高い精度が求められる分野にも活かされています。

誇るべき実績である一方、人々の暮らしとの距離が遠くなっていくことが気がかりだったという高下さん。そこで2019年、鑄物製品のブランド『KAMAHACHI』を始動。テーブルウェアや花器など暮らしに寄り添うアイテムを次々と発表しています。

自然の風景を宿した 温かな質感の金属たち

『釜八』の時代をさらに遡ると、同社のルーツは1611年に加賀藩が全国から鑄物職人を召致したことに始まるといいます。芸術文化を重んじる加賀百万石の気風の中で、武家の調度品や武具の製作を通じて、その技術を磨いていきました。

加賀藩が大切に育んだ文化は、400年の時を経て人々の日常にも自然に溶け込んでいます。たとえば、金沢では現在も茶道を楽しむ人口が多く、和菓子の消費量は全国トップクラス。それだけでなく、洋菓子やコーヒーなども含めた日常の“お茶の時間”全般の消費も非常に多いのです。

「忙しい時代だからこそ、ゆっくりとしたひととき

を持つことが大切。それこそが、金沢の茶の湯の伝統から現代人が受け継ぐべきマインドなのではないかと思っています」。

そんな思いから誕生したのがこの菓子切りとプレート。

菓子切りは、江戸時代から続く茶釜職人・宮崎寒雉さんと、銅鑪の人間国宝を先代に持つ魚住安信さんとのコラボレーション。お二人の名前から一文字ずつを取ってデザインされた、愛らしい雉と魚のかたちには、「茶道の伝統を未来につなげるため、もっと多くの人に気軽に触れてほしい」という願いが込められているそう。

スイーツプレートは「自然の風景を金属に宿したい」という想いでデザイン。「Ume」「Sakura」には、それぞれ梅と桜の木のモチーフを。木型職人が手彫りで制作したという温かみのある陰影が魅力です。「Flat」「Uchidashi」は、なだらかだったり起伏に富んだりする大地の姿をイメージ。「Uchidashi」の独特な模様は、日本の伝統的な技法である名栗加工が使われています。そして、このプレートに独特のやわらかな質感を添えている表面の微細な凹凸は、金属を砂型に流し込んで成型する際に生まれたもの。シンプルな「Flat」はその質感そのものを存分に楽しめます。

アルミ製のため落としても割れずに安心。熱伝導率が高いので、あらかじめ冷蔵庫で冷やしておけば、ひんやりしたお菓子を冷たいまま楽しめます。そんな細やかな心配りもまた、金沢らしさのひとつかもしれません。

はるか昔から続く循環を これからのものづくりにも

「金属の循環サイクルのことを、もっと多くの人に知ってほしい」と高下さん。

菓子切りとスイーツプレートに使われているのは、『ハイアット セントリック 金沢』で使用されたアルミ缶や、新聞を印刷するためのアルミ版など。800℃の熱で溶かして不純物をすっかり取り除い



上/「ハイアット セントリック 金沢」の使用済アルミ缶や、企業で使わなくなった機械の部品など、さまざまな廃材が集まります。
中/高温で熱することで溶けた金属。浮いてきた不純物を取り除き、金属成分を添加し、日本産業規格(JIS)に適合する素材に仕上げます。
下/素材の状態に戻った金属を砂型に流し込み、新たな製品として成型します。こうした循環サイクルを持つのが金属の特性。

たのち、日本産業規格と食品衛生法に適合させて、綺麗な金属として再生。砂型に流し込み、冷やし固めて仕上げます。

こうしたサステナブルな視点が根底にあることもこのアイテムの大きな魅力ですが、そもそも金属の世界では、役目を終えた製品を溶かしてふたたび新たな製品へと生まれ変わらせるサイクルが、はるか昔からごく当たり前のこととして続けられてきたのだといいます。「地球に存在する鉱物資源は有限です。無理なく循環させて、大切に活用していきたいですね」と、高下さんはこれからのものづくりについて話します。

美しい菓子切りとプレート。わたしたちのお茶の時間に寄り添いながら、大切なことをそっと教えてくれるような気がしました。



左/雉の菓子切りはピックとして、魚の菓子切りはバターナイフとしても使用できます。
右/金属でありながら、あたたかな質感を持つプレート。モダンなデザインがお茶の時間を上品に彩ってくれます。



こうげ ひろこ
高下 裕子さん

株式会社金森合金24代目。2019年、非鉄金属の精錬・鑄造技術を生かしたライフスタイルブランド「KAMAHACHI」を立ち上げた。代表商品の「針のない剣山」は令和2年度金沢かがやきブランドに認定。鑄造のワークショップなど、金沢鑄物を後世に伝える活動も積極的に行う。